北九州市立石峯中学校

【学校ホームページアドレス】
www.kita9.ed.jp/ishimine-j

ジャガイモ

校長通信　№.１０６

平成２９年　６月　１日

「 感動の卵① 」

校長　江　口　　満

福智山に初めて登った日のことを、今でも鮮明に覚えている。小学生だった自分は、父から「明日、山に登るぞ」と言われ、わくわくしながら布団に入った。翌朝、母が作ってくれたでっかいおにぎりをリックサックに詰め込み、八幡西区町上津役のバス停まで歩く。現在ではもうすでに廃止されている畑観音までバスに乗る。バスを降りると、川のせせらぎの音が気持ちよい。木漏れ日の中、緩やかな車道をしばらく歩き、尺岳方面という看板に出会う。そこからが本格的な山道だった。石ころの多き谷沿いの道が途切れると、つづら折りの山道に息が上がる。しかし元気盛りの小学生だった私は、父を追い越し、兄たちの背中を勢いよく追った。途中の湧水がとびっきり美味しかった。木陰から陽光あふれる草原に出ると、そこが尺岳平だった。父が飴玉を配ってくれた。相変わらず父は飴玉を、ガリガリ噛み砕いている。尺岳平で一息入れ、尾根伝いに歩き始める。見晴らしはあまり良くないが、林の中を歩くため風も涼しく、快調に距離を稼げるコースだ。１時間半少し歩いただろうか。登山道と樹林の間から、福智山の山頂が天に迫って見えた。最後の急坂を登りきると、山頂には何も遮るものがなかった。遠くに見える遠賀川がキラキラ輝く。濃厚な山の香りや鳥のさえずりが眼下から吹き上がり、湿って疲れた体に心地よかった。

山の魅力を教えてくれたのは、この山だった。

高校２年生の大晦日、夜の９時、同級生１０数名が下上津役の我が家に集合した。各自、カップヌードル２個と飯盒、薪をリックサックに入れ、懐中電灯を片手に出発。深夜、福智山まで歩き、山頂で初日の出を見ようという無謀な計画だった。福智山の山頂直下の水場に到着した我々は、火を起こして水を沸かし、カップめんを食べた。まわりの景色がうっすらと見え始めると、山頂に登り、皆で肩を組んだ。新年のご来光。校歌を大声で歌った。周りの大人たちの中で、高校の先輩だったのだろう。「いいぞ！」と言って一緒に歌ってくれた。薪の煤で顔が真っ黒になっていることに気付き、お互いの顔を見合わせて笑った。下山は、皆、睡魔のため、バラバラになりながらも自宅へ、なんとか帰り着いたのだと思う。たぶん。

高校３年生では、文化祭の打ち上げと称して福智山に登った。山頂ではしゃぎすぎ、時間が経つのも忘れ、鬼ごっこをして遊んだ。気が付くと、太陽がかなり傾いていた。秋の日はつるべ落としという。尺岳平に到着したころには夕闇が迫り、真っ暗闇の中、畑観音まで下った。遅くなったため、きっと親に叱られる。生徒指導の先生にば

５月１８日(木)１２時３０分、ついに我々は、福智山の山頂に立ち、「感動の卵」を生んだ！遠くに皿倉山を望む。

れたら、厳しく指導されるなどと、びくびくして下山した。途中、野犬が吠える声が聞こえた。当時、隊長だった私は「石を持て！」と叫んだ。しかし、林の中から飛び出てきたのは小さな犬だった。同行していた生徒会長は、責任を感じたのか、めちゃくちゃ大きな石(岩)を持っていた。今でもその話題になると、その光景を思い出した妻から、からかわれる。**【次号に続く】**

「いつまでも忘れない登山の思い出」
１年１組　Ｋくん

ふれあい合宿二日目の朝、先生が「今日はきついぞ！みんながんばれよ」っと言っていた。それは、登山のことでした。登る前に山を見ると、余裕と思いました。そして、登り始めると、急に足が痛くなって、ちょっとペースが落ちてきました。頂上まではまだまだなのに、登山を始めてすぐに疲れる自分を、なさけないと思いました。その時、ペースが落ちていた僕に、Ｕくんが「リック持とうか」や「大丈夫」と声をかけてくれて、なんとか登っていけました。途中途中の気づかいが大事な事だと知りました。そして、時々聞こえる「ファイト」や「がんばれ」などの声にもはげまされました。

頂上に着くと、ものすごい達成感と絶景がありました。高所恐怖症の僕でも、その景色に見とれてしまいました。そして頂上で食べる弁当は、とてつもなくおいしかったです。そして下る時は、きつくなりつつもＵくんに手伝ってもらい自然の家にたどり着けました。このつらくて楽しかった思い出を、いつまでも忘れないようにしたいです。

「はげまし合った山登り」　１年１組　Ｕさん

ふれあい合宿では、福智山に登りました。とてもきつくて、見た事のない植物や虫が色々ありました。登山の中でも、私が一番よかったなと思った事は、疲れていて元気がない友達とかに、はげましていた事です。特に、Ａくんとかは、おもしろい歌をつくったりして、周りの人を笑わせて元気にしていました。また、先頭にいる人が「ファイト！」と大きな声でみんなに声をかけると、誰かがその人に言葉を返していたので、私自身もみんなも元気になったと思うし、「よし！がんばって登ろう」と思ったはずです。ふれあい合宿の登山で、はげまして元気にしている人の良い所も見つかったし、はげまされて元気になった人もいて、一石二鳥だなと思いました。

登山で、人の良い所を見つける事ができたのでよかったです。これからも、はげまし合いを大切にして、一日一日を送っていきたいです。

「山頂で見た景色は…」
１年２組　Ｈさん

ふれあい合宿２日目の朝、正直に言うと、私は福智山に登りたくないと思っていました。普段運動を滅多にしない私が、山頂までたどりつけるのかという不安も大きくありました。いざ登ってみると、半分も行かないうちに、もう下山したいと思ってしまいました。私の想像より地面が急で、「きつい」「下りたい」と、そんなことばかり言っていました。けれど私が下山しなかったのは、友達のおかげです。「しりとりしながら行こう！」と言う友達の提案で、しりとりをしながら登りました。すると、疲れが半分くらい減りました。

そしてやっと「頂上だー！」と思った頃、よく分かりませんが大きな山が見えてきました。「もうここでお昼ご飯食べていいよ…」と、大分ショックを受けました。ですがもう「登る」以外の選択肢は、私に残されていませんでした。そこからは、もうほとんど記憶がありません。

頂上で見た景色は、なんというか、「達成感のかたまり」でした。本当に達成感しか心になかったと思います。下山は、意外とすぐでした。自然の家で飲んだリンゴジュースは、超美味しかったです。登山を通して私は、友達の大切さを実感しました。私も、友達の支えになれる人になりたいです。